

平成28年度の
取組の紹介

全部自分でちゃんとやり遂げようとしていて、何でもかんでも手助けをするのは悪いことだと思った。

いつも悲しそうだと思ったら、笑顔で足がない人でもいつも元気で笑っているんだなと思った。

今までは障害のある人から避けていたけど、障害のある人と一緒に体験する楽しさが分かった。

障害のある人へのイメージは、障害を気にせず一生懸命楽しんで生きているというイメージに変わった。

障害のある人を見つけたら助けたいと思った。

交流校の児童生徒の感想



障害者アスリートの講演会



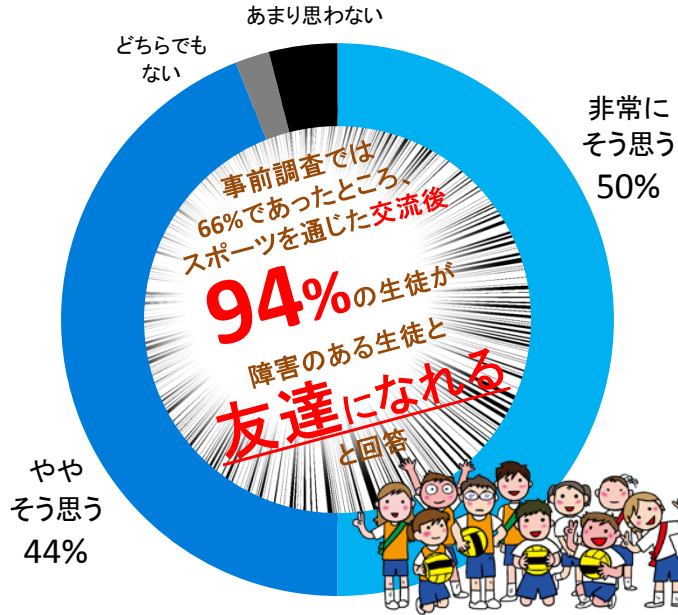
ゴールボールを通じた交流



ボッチャを通じた交流



協力してカローリングをする生徒



※県立八戸第一養護学校中学部を対象に実施したアンケートの結果より



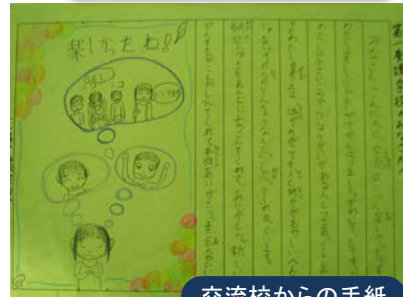
AACを使って作戦会議



特支校の生徒がルールを説明



みんなでできるルールの検討



交流校からの手紙

何もできない人たちだと思っていたが、自分でするように頑張っているんだとイメージが変わった。

話しづらいイメージだったが、話しやすかった。

障害があってもみんなと同じ遊びができた。

最初は遠慮していただけれど普通に接することができた。

その人のできることを探すことがとても大切だと感じることができた。

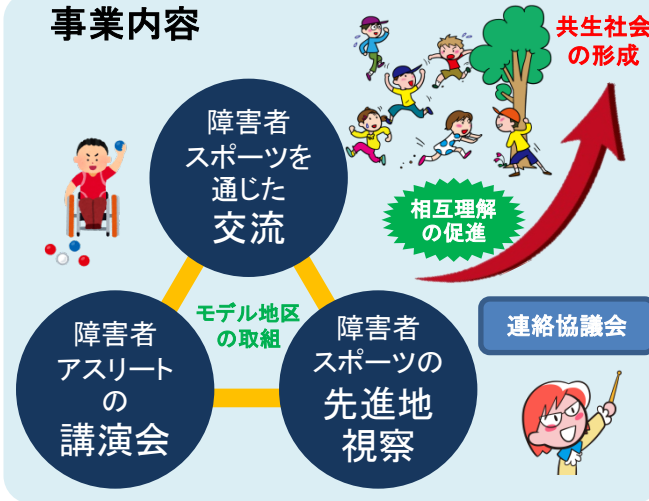
障害者でもできることや楽しみはいくらかもある。障害者は決して不幸ではない。

私たちとほとんど変わらないと思った。

交流校の児童生徒の感想



事業内容



青森県教育委員会